

福島労働基準監督署長



「福島地域 冬季転倒災害撲滅運動」の推進について（要請）

労働基準行政の推進につきましては、日頃から格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、福島労働基準監督署（以下「当署」という。）では、休業4日以上之死傷災害の2割以上を占める転倒災害の防止に重点的に取り組んでまいりました。

しかしながら、転倒災害は依然として休業4日以上之死傷災害の中で最も件数が多く、特に令和3年12月から令和4年3月までの冬季の凍結・積雪による休業4日以上之転倒災害は、当署管内において、84件発生し、これは会津地域（会津労働基準監督署および喜多方労働基準監督署管内の同転倒災害の合計）の39件と比べて2倍以上となり、大変憂慮すべき状況となっております。

そこで、当署において「福島地域 冬季転倒災害撲滅運動」を展開いたしますので、貴団体におかれましては、別添1の実施要綱および添付したリーフレットを参照し、労使が協力して冬季の転倒災害を防止するために、11月中に準備を実施し、12月から転倒災害防止活動を開始・継続するよう会員事業場に対して周知くださいますようお願いいたします。

担当部署	福島労働基準監督署 第2方面
	〒960-8021 福島市霞町1-46
	電話 024-536-4612

福島地域 冬季転倒災害撲滅運動 実施要綱

1 趣旨

厚生労働省と労働災害防止団体は、「STOP! 転倒災害プロジェクト」として、休業4日以上之死傷災害の2割以上を占める転倒災害の防止に重点的に取り組んできたところである。

また、福島労働基準監督署においても「STOP! 転倒災害プロジェクト」の周知や転倒災害防止リーフレットの作成配布等を行い、転倒災害の防止に取り組んできたところである。

しかしながら、転倒災害は依然として休業4日以上之死傷災害の中で最も件数が多く、特に令和3年12月から令和4年3月までの冬季の凍結・積雪による休業4日以上之転倒災害は、当署管内において、84件発生し、これは会津地域（会津労働基準監督署および喜多方労働基準監督署管内の同転倒災害の合計）の39件と比べて2倍以上となり、大変憂慮すべき状況となっている。

こうした状況を踏まえ、冬季の凍結・積雪による転倒災害の防止を目的とし、

「STOP! 転倒災害プロジェクト」の更なる強化を図るべく、「福島地域 冬季転倒災害撲滅運動」を展開し、冬季の転倒災害を防止するために、先取りした準備、適切な時期の開始、継続した活動を労使協力して実施する。

2 スローガン

「準備・開始・継続 3つのステップで冬季転倒災害の撲滅を！」

3 実施時期

準備期間：11月1日～11月30日

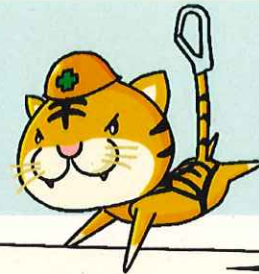
実施期間：12月1日～3月31日

4 事業場実施事項

- (1) 「福島地域 冬季転倒災害撲滅運動」リーフレットを掲示する等して、労働者に周知を図る
- (2) 準備期間に以下事項を実施する
 - ① 転倒災害防止担当者の選任、職場の点検
 - ② 転倒防止用用具の準備
 - ③ 転倒等リスク評価セルフチェックの実施
 - ④ 転びにくい歩き方の教育
- (3) 実施期間内に以下事項を実施する
 - ① 転倒防止用用具の設置・配置状況の確認
 - ② 凍結・積雪の予報発令時にその旨を労働者に周知
 - ③ ヒヤリハット事例、凍結・積雪による転倒災害発生時に原因の調査と再発防止対策の実施
- (4) 継続した活動のために、定期的に以下事項を実施する
 - ① 転倒防止用用具の点検
 - ② 転倒災害防止の再教育

～福島地域 冬季転倒災害撲滅運動～

準備・開始・継続3つのステップで 冬季転倒災害の撲滅を！

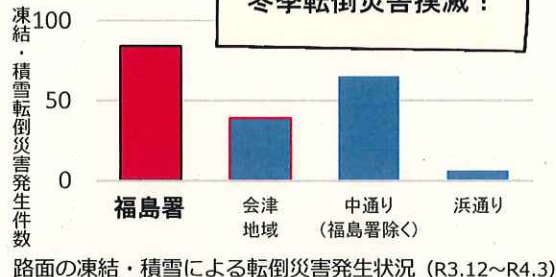


令和3年12月から令和4年3月までの冬季に発生した休業4日以上
の転倒災害のうち、路面の凍結や積雪を原因とするものが、**福島労働基準監督
署管内において84件発生し、会津地域の2倍を超えて発生**しました。

これから冬季を向かえるあたり、以下の3つのステップ

先取りした**準備**、適切な時期の**開始**、**継続**した活動

を実施して、冬季の転倒災害撲滅に努めてください。



ステップ1 準備 期間：11月1日～11月30日

冬の転倒災害を防ぐには早め早めの準備が重要です。

融雪剤や転倒防止マットの設備的対策に加えて転倒等リスク評価セルフチェックや歩き方教育等、労働者に対して教育や注意喚起を行うと効果的です

準備期間中に実施する事項	
①	転倒災害防止担当者を選任し、担当者が転倒危険個所の把握や転倒災害防止措置の設備的対策の検討・用意等、転倒災害防止活動の管理等を行う
②	通路として使用する場所の路面(床面)が見える明るさを確保し、必要な数の融雪剤・転倒防止マット・雪かき用具等の転倒防止用用具を用意、設置する
③	転倒等リスク評価セルフチェックを行い、労働者一人ひとりが、今の身体機能を把握して正しい自己認識を持つことで、自ら転倒災害のリスク管理を行う
④	凍結や積雪時に転びにくい歩き方を教育し、練習する



ステップ2 開始 期間：12月から

適切な時期(初積雪や凍結する前)に、設備的対策の実施と労働者に注意喚起を行ってください。

開始期間中に実施する事項	
①	転倒防止用用具の設置・配置状況を確認する
②	積雪・凍結の予報が出たことを労働者に周知する
③	ヒヤリハット事例や転倒災害が発生した時に、その原因の調査と再発防止対策を実施する



ステップ3 継続 期間：～3月31日まで

設備的な対策について、破損や不足がないか定期的に確認し、必要に応じて補給してください。

年末年始の休暇明け等に転倒災害防止の再教育を行ってください。

継続期間中に実施する事項	
①	転倒防止用用具の点検を行う
②	転倒災害防止の再教育を行う

準備・開始・継続3つのステップで冬季転倒災害の撲滅を！

「ステップ1 準備」編



福島地域
冬季転倒災害撲滅運動
展開中

冬の転倒災害を防ぐには**早め早めの準備が重要**です。

融雪剤や転倒防止マットの設備的対策に加えて転倒等リスク評価セルフチェックや歩き方教育等、労働者に対して教育や注意喚起を行うと効果的です。

11月を準備期間として、以下の事項を実施し、冬季の転倒災害撲滅に努めてください。

準備期間中に実施する事項

- ① **転倒災害防止担当者を選任**し、担当者が転倒危険個所の把握や転倒災害防止措置の設備的対策の検討・用意等、転倒災害防止活動の管理等を行う
- ② 通路として使用する場所の路面(床面)が見える明るさを確保し、必要な数の融雪剤・転倒防止マット・雪かき用具等の**転倒防止用具等を用意(設備的対策)**する
- ③ **転倒等リスク評価セルフチェック**を行い、労働者一人ひとりが、今の身体機能を把握して正しい自己認識を持つことで、自ら転倒災害のリスク管理を行う
- ④ 凍結や積雪時に**転びにくい歩き方**を教育し、練習する



1 転倒災害防止活動を行う担当者を選任しましょう

転倒災害防止担当者を選任し、以下事項を実施しましょう



危険個所の把握

- 過去に、凍結・積雪により転倒災害やヒヤリハット事例が発生した場所等の危険個所を把握してください。
- 労働者の移動範囲(駐車場、玄関、通路、屋外ゴミ捨て場等)のパトロールを行ってください。

設備的対策の 検討・用意

- 把握した危険個所について、人感センサーライト、転倒防止マット、融雪剤、雪かき用具等の設備的対策の種類と設置数を検討してください。
- 検討結果で必要とした設備的対策の設置や用意をしてください。

転倒防止教育等 の実施

- 転倒等リスク評価セルフチェックや冬季の転びにくい歩き方を労働者に教育してください。





通路の明るさを確保し、必要な数の融雪剤・転倒防止マット・雪かき用具等の転倒防止用具を用意（設備的対策）しましょう

- 出勤、退勤の時間でも路面の様子が見える明るさを確保しましょう。
 - ・明るさが不足している場合には人感センサー付きライト等を設置しましょう。
- 特に以下の場所の近くには転倒防止用の用具を用意しましょう
 - ・過去の転倒災害、ヒヤリハット事例が発生した場所
 - ・社員用駐車場、駐車場から事業場玄関までの通路
 - ・屋外のごみ箱や資材置場等までの通路

- **転倒危険場所**にはその旨を**掲示**しましょう



転倒防止マットの例（ゴム製）（水草製）



人感センサー付きライト設置例（職場のあんぜんサイトより）

凍結転倒発生場所！



この場所は令和4年に
凍結による転倒災害が発生
しています
通行時は凍結していないことを確認してください
凍結・積雪していた場合は通行せずに、事務室に
連絡してください

転倒危険場所掲示の例



転倒等リスク評価セルフチェック※を行いましょう

- 転倒等リスク評価セルフチェックを行うことで、**自身で考える身体の動き（身体機能に対する意識）と実際の身体機能のバランスを「見える化」**し、労働者自身が転倒のリスクがあることを認識しやすくなります。

※転倒等リスク評価セルフチェックとは、転倒・墜落・転落等の災害リスクを労働者自ら確認し、労働災害防止のための気づきの援助として活用することを目的として厚生労働省および中央労働災害防止協会が作成したものです。

身体機能計測

以下5種目の身体機能を測定します。

- ①歩行能力・筋力 ②敏捷性



- ③動的バランス



- ④静的バランス（閉眼）

- ⑤静的バランス（開眼）



身体機能に対する意識

自身の身体機能に関する意識に関する質問に回答します。

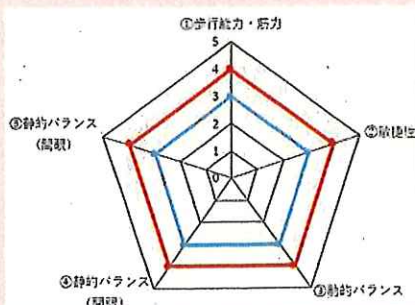
質問内容	例（1つだけ選択してください）	回答
1. 歩行時、足踏みや踏み込み動作が容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	
2. 歩行時、急な方向転換や急停止が容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	
3. 歩行時、急な立ち上がりや急な立ち下りが容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	
4. 歩行時、急な立ち上がりや急な立ち下りが容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	
5. 歩行時、急な立ち上がりや急な立ち下りが容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	
6. 歩行時、急な立ち上がりや急な立ち下りが容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	
7. 歩行時、急な立ち上がりや急な立ち下りが容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	
8. 歩行時、急な立ち上がりや急な立ち下りが容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	
9. 歩行時、急な立ち上がりや急な立ち下りが容易にできるか	<input type="checkbox"/> 非常に容易 <input type="checkbox"/> 容易 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不慣れ <input type="checkbox"/> 非常に不慣れ	

結果の見える化（グラフ）

「身体機能計測」の結果（青線）と「身体機能に対する意識」の結果（赤線）を見える化（グラフ）し、労働者自身に転倒のリスクを認識させます

（例）

左グラフは、身体機能計測結果（実際の身体機能）の青グラフが、身体機能に対する意識（自己認識）の赤グラフより小さいので、労働者自身が思っているよりも身体が動かないことが分かります。





4 転びにくい歩き方を教育しましょう

凍結・積雪時に転びにくい歩き方を教育しましょう。

準備期間（11月）から転びにくい歩き方を実践させて、身に付けさせましょう。

教育とあわせて、滑りにくい靴での通勤を推奨しましょう。

～転びにくい歩き方～



路面をよく見て歩きましょう

- ・路面が乾いてるように見えても薄く氷がはっていたり、新しく降り積もった雪でツルツル路面が隠れている場合があります



靴の裏全体を路面につけて歩きましょう

- ・ツルツル路面では、重心をやや前におき、できるだけ足裏全体を路面につけて、ペンギンのようなペタペタ歩きをイメージしましょう



小さな歩幅でそろそろ歩きましょう

- ・滑りそうな道や凍っている場所等では、歩幅を小さくしてそろそろ歩きましょう

～滑りにくい靴～

通勤靴は以下の凍結路面で滑りにくい靴底を推奨しましょう

- ・深い溝のある底
- ・ピン、金具付きの底（絨毯に引っかかったり、タイル等で滑りやすい場合がありますので注意）
- ・滑り止め材入りゴム底



深い溝のある靴底の例



ピン、金具付きの靴底の例



滑り止め材入りゴム靴底の例

～転びやすい （怪我しやすい） 歩き方～



携帯電話等をしながら歩くことを禁止しましょう



ポケットに手を入れてながら歩くことを禁止しましょう



急いで移動することを禁止しましょう

ウインターライフ推進協議会では、札幌発の冬みちを安全・快適に歩くための総合情報サイトを開設しています。インターネットサイトは右QRコードでも閲覧できます。

（QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。）



イラスト等提供：ウインターライフ推進協議会



参考にしてください

危険箇所を把握する場合には、以下のチェック表を活用して実施してください

危険箇所把握チェック項目		チェック結果
1	労働者が通る(歩行する)以下の場所の明るさを確認しましょう 【ポイント】 出社、退社の時間帯に、路面(床面)の積雪や凍結の状況がはっきり見える明るさとなっているか確認してください。	
	①労働者用駐車場、労働者用駐車場から玄関までの通路(公道は除く)	
	②事業場敷地内で労働者が通常使用する通路	
	③屋外ゴミ箱や資材置場等までの通路	
2	過去に凍結や積雪による転倒災害やヒヤリハットが発生した場所を確認しましょう 【ポイント】 労働者にアンケートを実施してヒヤリハット事例を収集してください	
	①過去の凍結・積雪による転倒災害発生場所	
	②凍結・積雪による転倒のヒヤリハット発生場所	
3	労働者が通る場所に、転倒災害のリスクが高い以下の場所がないか確認しましょう	
	①段差、溝	
	②鉄板やグレーチング等の路面(床面)と材質が異なる場所(滑りやすい場所)	
	③屋根等から水滴が落下する場所、水たまりになりやすい場所	
	④日陰になる場所	

転倒等リスク評価セルフチェックを実施する場合には以下のサイトを活用してください

長崎労働局インターネットサイト内の「転倒等リスク評価セルフチェック」のページに、転倒等リスク評価セルフチェックの簡易的なマニュアルや身体機能計測結果等を入力すると自動で結果の見える化(グラフ)を行うエクセルシートをダウンロードできます。



長崎労働局インターネットサイトより抜粋

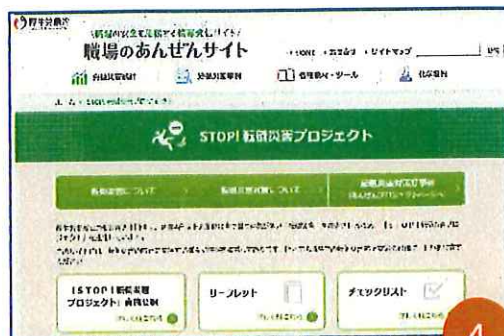
転びにくい歩き方を教育する場合には以下のサイトや動画等を活用してください

厚生労働省インターネットサイト内の「転倒予防・腰痛予防」のページに、注意喚起用の動画を掲載していますので、教育前に鑑賞して注意喚起を図ってください。

厚生労働省インターネットサイト「職場のあんぜんサイト」では、STOP! 転倒災害プロジェクトで各種教育資料や動画を掲載していますので活用してください。



厚生労働省インターネットサイト「転倒予防・腰痛予防」より抜粋



厚生労働省インターネットサイト「職場のあんぜんサイト」より抜粋